

## 平成 2 4 年 第 4 回 定 例 会 一 般 質 問

質 問 者	質 問 事 項 及 び 要 旨	質 問 の 相 手
土 川 重 佳	<p><b>小値賀町町有めす牛貸付制度の見直しについて</b></p> <p>現在の小値賀町町有めす牛貸付制度は、1農家当たり無利子の頭数が5頭以内となっている。今後の小値賀町の中核畜産農家を育成していく上においても、貸付制度の見直しは必要ではないかと思う。現在の無利子の該当頭数の枠が拡充できないか伺う。</p>	町 長
伊 藤 忠 之	<p><b>実践型地域雇用創造事業への取組みについて</b></p> <p>本町の基幹産業は、豊かな自然を背景とした農水産業であり、また地域資源を生かした観光事業に取り組んでいるが、農水産物の価格不安定などにより低迷し、高齢化、後継者不足など深刻となり、それにより商工業にも影響が及んでいる。</p> <p>今回、地域を再生するとして、実践型地域雇用創造事業に取り組んでいるところであるが、内容について伺う。</p> <p>○どのような趣旨・目的をもって行うのか伺う。          ○実施しようとする主な事業と効果を伺う。          ○実施期間（3ヶ年）終了後における計画の予定を伺う。</p>	町 長
末 永 一 朗	<p><b>急がれる磯焼け対策について</b></p> <p>本町の漁業者にとって磯焼け問題は死活問題となっている。異常気象、漁業経営の不振等の中において、藻場の再生は、町水産業の重要な鍵となっている。藻場の再生事業等、行政としての支援策について、2点伺う。</p> <p>① 今回の離島振興計画の中に上げられている磯焼け対策事業を小値賀町がモデル地区に推定されるよう県に働きかける考えはないか。          ② 磯焼け問題は町全体の事と考え、漁協、漁業者及び行政が一緒になって取り組んで行く考えはないか。</p>	町 長

小 辻 隆 治 郎	<p><b>人口減少の問題について</b></p> <p>いま、小値賀町にとって何が喫緊の問題かといえば、人口減少の問題であろう。議会でも一般質問に取り上げられ、行政としても即効的な解決策が見い出せない状況である。しかし、手をこまねいているわけにもいかない。交流人口の増加は、解決の一つの糸口でもある。そこで、3点ほど伺う。</p> <p>(1) 人口減少に対するこれまでの政策、そしてこれからの政策について伺う。</p> <p>(2) 小値賀町の提唱で、例えば「国境離島を考える会」とか「無人島サミット」等の名目でシンポジウムを開き、関係自治体に呼びかける発信をするのも方法としてあるのではないか、伺う。</p> <p>(3) 人口減に対応するため、小値賀空港を「軍民共同」の形で利活用しようとする構想があるが、これについての見解を伺う。</p>	町 長
浦 英 明	<p><b>小中高一貫教育の研究概要と今後（校舎建設と給食施設）の問題点について</b></p> <p>1、小中高一貫教育は校種間を越えて、総合乗り入れ授業を実施しているが、ある先生が、「校種間を越えた授業は全体の一握り、数%しかない。」と、この言い回しをどのように捉えているのか伺う。</p> <p>2、小中高一貫教育の調査研究報告書に、「校舎整備が遅れることにより、小中高の教職員の熱意が消えていくことが懸念される。」とあるが、この報告書の内容をどのように捉えているのか、又、当時と比較して現在はどうか伺う。</p> <p>3、県職員が、小値賀は教育熱心なところだ、学力テストも県下でトップクラスである。小中併設校となれば、先生が減らされ8名減となるとの話だったがどうか、又、学力テストの結果公表はしないのか伺う。</p>	町 長 教 育

4、 校舎建設は工程表では1 2月3日完成の予定だったが、1月末までずれ込み、外溝工事は2月末までずれ込むとのことである。

(1) 起工式に出席したが新校舎に入れなければ、卒業間近の中学3年生が可哀想である。このことをどのように考えているのか伺う。

(2) 雨とか台風とか工期延長の理由を述べているが、違約金等はどうなるのか伺う。

5、 小中高一貫教育をしているのだから、高校も給食を実施しては如何との意見もあるが、このアンケート結果も踏まえて、学校給食をどのように捉えているのか伺う。